

新しい生活を迎えた二人

美作市立作東中学校

一年生 田中 駿太

四月、まだ着慣れない大きめの制服に袖を通し中学校に入学した僕と、黒く染めた髪を一つにくくり、看護学校に入学した母との新しい生活が始まりました。

母は飲食店で働きながら、僕が小学校に上がる頃に勉強をして、介護福祉士を取得しました。母の勤める回転ずし店は、地域的にも高齢者のお客さんがほとんどで、僕の記憶の中だけでも三回ほど店内で倒れたお客さんを助けたことがあります。三回とも、後日ご家族がお礼を言いに来て、飲食店なのにすごいなあ、と思った記憶が残っています。しばらく経ってから聞いたのですが、その内の一人は呼吸が止まり、

「助からないかもしれない。」

と母も怖かったと知らされました。持病が原因だったらしく、救急車を早く手配したこともあり、退院し元気に来店した姿を見て安心した

という話も僕の記憶に強く残っています。

僕が小学生のときは、一緒に母の職場に行っていました。色々な面で頼られる立場であった母の姿を見ていたからこそ、退職し全日制の専門学校へ行くと聞いて驚かされました。

母は僕が小学校六年生の九月に受験をしました。受験科目は漢字、生物、時事ワーク、一般教養と小論文、面接でした。いつ勉強をしているのか、僕は知りませんでした。

十月になると突然、

「仕事を辞めて、学校に行こうと思うけど、いいかな。」

と相談されました。

「やってみたらいいんじゃない。」

と返事をする、合格通知書を笑顔で見せてきました。母はずっと前からこの道へ進むことを決めていたように感じました。口にはしなかったけれど、僕が中学校に入学するタイミングを待っていたのではないかと思いました。

ところで、母が入学した美作市スポーツ医療看護専門学校は、美作市大原にあり、看護学科第八期生は、男性二人、女性十一人の少人数のクラスで、母は一番年上です。高校を卒業したばかりの十八歳の人たちに紛れて三十代の大人が、僕のように毎日学校へ行くということが想像できなかったけれど、母は毎日を一生懸命こなしています。十八歳のクラスメイトとご飯を食べに行ったり電話をしたり、楽しそう

にしています。同じ目標を持つ仲間には年齢は関係ないようです。

僕は学校の後、部活をして帰ると疲れて宿題などやる気が起きないけど、不思議な事にゲームだけは出来てしまい、二時間などあつという間に過ぎてしまいます。僕が遊んでいる頃、母はご飯を作りながら、合間に課題を進めていました。夜ご飯と一緒に食べるのが我が家のルールで、その時は面白かったことや最近あったこと、疑問に思ったことを話します。母が唯一ゆっくり過ごす時間であり、新生活を迎えてもそこは変わらないのです。

七月のある日、学校から帰ってきて一緒にテストの点数を見せ合おうとなりました。僕は得意な科目もそうでない科目も、それなりに頑張ったという点でした。そして僕が母の点数を見たとき、とても驚きました。普段は布団のことをお風呂と間違えるような、少しおっちょこちよいの母だったので、点数は負けていないだろう、と思っていたいました。ところが母はほとんどが九十点以上。驚きと同時にどこか少し恥ずかしい気持ちがありました。母は僕がゲームに夢中になっている時間、家事と勉強を両立させ成功したのです。今では、僕も少しだけゲームの時間を減らして、問題を出し合ったり、二週間前からテスト勉強を始めたりして、母に負けなくらいの熱量で勉強に励んでいます。

僕が寝る時間に母はまた勉強を再開します。その姿は、僕にとって良い刺激になっています。大人になっても夢を追う姿や何か新しいこ

とを始める勇氣、努力し続けることは、これから僕の人生にも必ず大事になってくると思います。

そして、今まで家のことを全てしてくれていた母の代わりに、僕も出来ることはしようと考えてようになりました。母が学校から帰るまでの間にご飯を炊いたりお風呂を済ませておいたり、忙しいなかでもだれかのために何かをするというのは、身近な人にも可能な人助けです。今まで僕が身の回りのことをしてきてもらったように、少しでも母の手助けをしたいと思ったのです。

中学校に入学した僕も、看護師を目指す母も、まだ始まったばかりです。これから多くの試練や困難が待ち受けていると思います。でも、母ならきっと乗り越え、人の気持ちに寄り添える看護師になると思います。

僕にはまだ将来の自分の姿が思い浮かびませんが、何か誰かのためになる仕事を選択したいと思っています。その一つに医療という選択肢が入ったのは、僕が苦手とする勉強や課題を楽しくこなして、日々のなかで高齢者の方や、小さな子に対して優しく助けに行く母の姿がきっかけでした。

中学生になった僕は、毎日新しいことを学んでいます。母から学んだことも多くあります。その一つは、いつからでも学び直し、夢を追うことができるということです。そして、夢を追うチャレンジすることに遅いということはなく、そのために努力することが一番大切で

輝いていると思うようになりました。母の挑戦は僕にとって学び多きことで、僕自身を大きく成長させてくれたと感謝しています。

二年後、母には国家試験が待っています。僕の高校入試と重なり、二人が次の新しい生活を迎えた姿を想像すると、心配よりも希望に満ちています。そのためにも、中学校生活がより充実するよう日々頑張っています。